

# KiKiの広場

2020年12月 1日

cafe NO.122  
KiKi



2020年も残すところ、あとひと月となりました。思えば、戦争以外で世界中がこれほど混乱した年はないのではないのでしょうか。1月の「KiKiの広場」を見ると、オリンピックに対する期待感や、NOも「111」と何か縁起が良さそうで、とってもいい年になるだろうと夢を膨らませていました。まさか、何度も休館を強いられることになるろうとは……。マスクや消毒が日常の今、これからもずっと見えない敵と戦い続けていかなければなりません。ただ、不幸な出来事ばかりではありませんでした。4月には、令和7年までのヒストリア宇部の指定管理者に、改めてタグボートが指名され再スタートをきることができました。9月には、「ヒストリア宇部10周年記念市民祭」も無事に開催され、多くの方に参加していただくことができました。できないことを嘆くのではなく、何ができるのか、どんなことが楽しめるのか、1年を振り返りながら、来年も元気に前向きに過ごせるよう、みんなと考えていきたいと思えます。みなさま今年も大変お世話になりました。来年もどうぞよろしくお願ひいたします。

## 12月の予定

休館日	8日(火)
定休日	毎土・日・月曜日
年末年始休み	26日(土)～1月4日(月)



## 「今日のケーキ」・・・「ガトーショコラ」 350円



シンプルな中にも深い味わいがある定番の人気者。ベルギー産のチョコレートを使用し、甘味を抑えた濃厚な口当たりで手作り感あふれる逸品です。

## 今日のお気に入り・・・「いくつになっても、ウキウキワクワク クリスマス!!」



## ～「しあわせなモミの木」「サン・サン・サンタ ひみつきち」「サンタのおまじない」「クリスマス人形のわかい」 などなど ～



「しあわせなモミの木」は、読み終えた後、じーんと心が温まるような優しい絵本です。シャーロット・ゾロトウのお話は、いつも深い優しさで包まれているように感じます。眺めているだけで幸せな気持ちになるような、きれいな色合いの絵も素敵です。「サン・サン・サンタ ひみつきち」は、かこさとしさんが遺した、ただひとつのクリスマスの絵本です。舞台は北極。氷の下に秘密基地があり、そこには、なんと、世界中から出たゴミやがらくたが送られてきて……。この絵本は復刻版ですが、初版は1986年です。8ページに渡って、隅々までびっくりするほど数々のおもちゃたちが描かれています。たくさんの懐かしいおもちゃに出会えるのではないかと思います。どれ一つとして同じものはありません。かこさんの素晴らしい発想と、子どもたちに対する未来に向けての深い想いが伝わってくるようです。



## 今日の本棚・・・「バージニア・リー・バートンの世界」



## ～「ビュンビュンきしゃをめぐく」「ちいさいケーブルカーのメーベル」「名馬キャリコ」「ちいさいおうち」「はだかの王さま」～



「ちいさいおうち」や「いたずらきかんしゃちゅうちゅう」で有名な、バージニア・リー・バートンの特集です。「ビュンビュンきしゃをめぐく」は、犬と機関車が走る速さの競争をするお話です。機関車に石炭をくべる仕事をしている飼い主のゴウゴウを追いかけて、飼い犬のビュンビュンがいつも機関車よりも先に駅についているという、えっ？というあり得ない展開なんです。無邪気に颯爽と走るビュンビュンの姿がとても愛らしく、バートンの絵がこの走りなら機関車よりも速いかもと思わせてくれます。ゴウゴウとビュンビュンがどれだけ仲良しで信頼し合っているのか、見ていて嬉しくなります。「ちいさいケーブルカーのメーベル」は、実際にあったサンフランシスコのケーブルカーの廃止反対運動を元に作られた絵本です。サンフランシスコのケーブルカーが初めて走ったのは、1873年、世界最古だそうです。「ちいさいおうち」にも通じる、作者の古き良き時代への温かい想いが、お話にも絵にも溢れています。バートンは、59歳の若さで亡くなっていますが、来日して石井桃子さんや松岡享子さんとも親交を深め、日本の文化を楽しんでいたそうです。

